



梁田館跡（的場跡）

## 梁田館跡

平成二年一二月 村重要文化財（史跡）指定  
所在地 新鶴村大字立石田字宮東三二九  
管理者 梁田部落

新鶴村には館跡が八ヶ所、柵跡が二ヶ所、山城跡が二ヶ所があり、内十か所が会津の資料に記載されている。しかし、現在では農地及び屋敷となつてしまい、館跡では梁田館と沢田館の二ヶ所がその面影を残すだけである。

梁田館跡は、東西四〇間、南北四〇間。現在の村社登我和乃神社境内と付近の民家が含まれ、また西縁に土塁の面影が残っている。高さ約二間、南へ約一五間、幅約三間の的場と伝えられる遺構を持つ珍しい館跡である。

館主については、会津年表に「千代和泉守ト云ウ者住セスト云ウ」と見える。天文一八（一五四九）年五月二日千代和泉守包直の石塔もある。葦名全盛期の館跡である。

## 新鶴村の八館

根岸中田館

鎌倉時代 富塚伊賀守築住

入田沢館

室町時代 武藤帯刀築く

逆瀬川館

室町時代 平山十郎築住

境野館

室町時代 小野大膳築く

” 河原田豊前住む

安土桃山時代 佐藤平七住む

梁田館

室町・安土桃山時代

千代和泉守住む

沢田館

室町時代 沢田兵庫築く

沖中田館

安土桃山時代 風間甲斐守築く

出戸田沢館

構築時代等不明